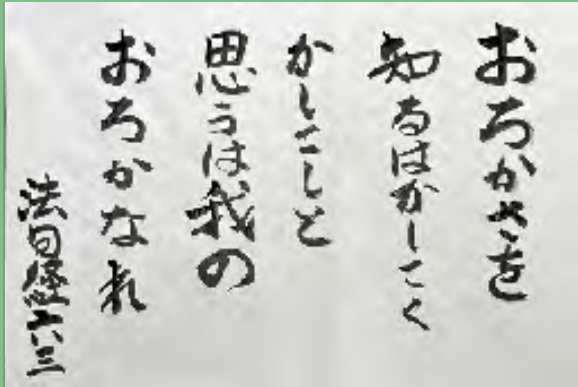




實相寺 花園會報

令和七年
三月一日発行
發行所
臨濟宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園會
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL087-889-3838
編集發行人
山本文匡
<https://www.jissouji.net>

第191号

お寺の掲示板

これは人間の愚かさを示された、第五章の中の一節である。人を罵る最悪の言葉に「馬鹿野郎！」という言葉がよく使われるが、そう罵られて腹を立てない者はないようだ。それほど人間は誰しも、自分を賢いもののように思っているらしい。そのことが賢くない証拠だと、教えられるのである。

『法句經 真理のことば』 山田無文老師 春秋社

総長選挙に立候補しました

当山住職が次期宗務総長選挙の候補者となりました。選挙は三月四日公示、三月二十六日開票で行われます。住職は以前から宗門の課題を訴えて来ましたが、今回図らずも七名の同僚議員の応援もあって立候補することになりました。この機会に、広く問題提議出来ればと考えています。檀信徒の皆様も住職が何を訴えているのか、ご興味のある方は、是非左記QRコードからご覧下さい。



 山本文匡 住職	 山本文匡 住職	 山本文匡 住職	 山本文匡 住職
山本文匡 住職	山本文匡 住職	山本文匡 住職	山本文匡 住職

「父母恩重經を読んで②」

いよいよ本文をご紹介しますように
 思います。前回『大正新修大藏經』
 収録の敦煌本をご紹介しますと申し
 ましたが、そちらよりもより丁寧
 に説かれ、一般にも出回っている
 流布本をご紹介します。

また読み下しをお読み頂ければ、
 概ねその意味は理解出来ると思い
 ますので、細かく解説せずに大意
 を味わって頂ければと思います。
 「是の如く我聞けり。或時、仏、王
 舎城の耆闍崛山中に菩薩声聞の衆
 と俱にましましければ、比丘・比
 丘尼・優婆塞・優婆夷、一切諸天
 の人民及び龍鬼神など、法を聞か
 んとて来り集まり、一心に宝座を

圍繞して、瞬きもせで尊顔を仰ぎ
 見たりき。」

普段、臨済宗でお唱えするお経
 に「如是我聞：」から始まるお経
 はありませんが、一般的にはこう
 した形式が多いです。それはお経
 の始まりは、お釈迦様が存命中に
 書き留められた記録では無く、お
 釈迦様が亡くなった直後に開かれ
 た結集の際、一番長くお釈迦様に
 随行した阿難尊者の記憶から紡が
 れた言葉が伝えられたものだから
 「私はこの様に聞きました」と始ま
 るのです。

一方、前回説明した通り『父母
 恩重經』は中国で撰述された偽經
 ですが同様の形式をとっています。

これについて松原泰道師は次の様
 に述べられています。

『俱舍論』という仏教の經論に、
 經典を読むには「義に依って、文
 に依らざれ」と。義を読みとり、
 文字や言葉にとらわれるな、と戒
 めてある（中略）ここでいう義は当
 然「釈尊のさとの内容」ですから、
 釈尊のさとの内容を敷衍、説明
 するのはすべて仏説（釈尊が説いた
 教え）として差し支えない道理です。
 ゆえに、遠く釈尊にかしづく信心
 から「如是我聞」と。おのずから
 口をついて出るのです。

ということですので、細かいこ
 とにはこだわらずに、読み進めて
 参りましょう。

「是のとき仏すなわち法を説いて宣
 わく、一切の善男子、善女人よ、
 父に慈恩あり、母に悲恩あり。そ
 のゆえは、人の此の世に生るるは、
 宿業を因とし父母を縁とす。父に
 あらざれば生れず、母にあらざれ
 ば育たず。ここを以て氣を父の胤
 に稟けて形を母の胎に托す。此の
 因縁を以ての故に、悲母の子を念
 うこと世間に比いあることなく、
 其の恩未形に及べり。」

ここで注目すべきは、人が誕生
 するのは両親の出会いが縁ではあ
 るが、それ以前に原因としての宿
 業があることと、母が子を心配す
 る恩は未だ胎児の形が出来る以前
 からだという指摘です。（続）